

# チームけせんの和 だより

2014  
vol.2  
10月1日

発行 チームけせんの和

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL.0192-54-2111 FAX.0192-55-6118



## 在宅療養を支える会（チームけせんの和）

### 会員事業所を訪問して

会長 石木 幹人

今年度に入り、けせんの和に登録している施設を訪問して、各施設のけせんの和に対する要望などを聞いて回っています。陸前高田で展開している、介護、高齢者の施設、在宅訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、通所リハビリ、障害者の就労継続支援事業所、薬剤師会、歯科医師会、歯科衛生士会など多岐にわたりました。訪問して感じたことは、各施設、職能団体が、それぞれが、その能力を発揮するために日々努力をしている姿でした。要望として、各職能団体の基本能力を発揮するための講習会の開催や、事例に即した検討会による知識や技能の習得が多く寄せられました。そのような要望にいち早く対応できる体制の整備が必要だと感じましたので、できるだけ早く、対応できる体制を整えたいと考えています。

今年度予定していたコーディネーターが3人体制となり、活動を活発にしていける状況になり、ICTの試験運用を本格化できる体制になりました。将来の気仙地域全体の情報共有を視野に入れて、試験的に取り組み、問題点の把握を行いたいと思います。また、少子高齢化社会に対応するために、陸前高田市の民生部と連携し、健康長寿社会をめざし、市民啓発活動や、市民の健康維持、見守りのための人員確保のための講座開講などを考えています。各職種には啓発活動や講座への講演を依頼することになるので、ご協力をお願いします。





## 「りくカフェ」から

陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）役員  
NPO法人りくカフェ 代表理事

鵜浦医院 院長 鵜浦 章

「りくカフェ」設立のきっかけは、震災直後に開かれた意見交換会での一言でした。『ホッとくつろげる場、落ち着いて皆と話せる場が欲しい。医療機関のそばにあれば良いのに・・・』仮設での診療を再開した後、余計にその言葉が思い出されるようになりました。その年の夏、たまたま当地を訪れていた東大工学部の小泉先生に相談したところ、大いに賛同を得、御協力いただくことになったのです。そして、産・学・地元民間の珍しい体制で、仮設ながらも木の香り漂う癒しの空間が出来上がりました。この事業には多くの支援者の熱い思いが込められており、我々地元メンバーとしてもなんとか実りある活動をしたいと心に誓ったものでした。

H24年1月オープン以来、県内外から多くの方々に御利用いただき、初期の目的に加え情報交換の場としても大きな役割を果たしたのと思っています。現在仮設から本設への建て替えが済み、10月5日にオープンすることができましたので、今後の運営についてもう一つ輪を広げた活動を目指しております。

それは周囲に鵜浦医院、吉田歯科医院、森の前薬局が立地する利を生かし、健康増進、医療サポートを行っていくというものです。具体的には管理栄養士の指導による低カロリー、減塩食をメニューに加え、食体験をしていただくのが一例です。また、症状にあった運動指導も大きな目標と考えております。医療サポートの活動としては、鍼治療、心のカウンセリングなどができればと思っています。

そして、もう一つ大きな柱として介護の面でお手伝いできないかと模索しております。介護度の低い方を対象に予防的見地からの活動、更には趣味を生かした生きがい創りなど「りくカフェ」を通じてできることがあるかと思っています。チームけせんの和にはこの分野の先達が集まっており、今後の活動に向け御指導いただければ幸いです。

## チームけせんの和 活動報告

H26年6月15日

陸前高田の在宅療養を支える会 平成26年度総会（62名参加）

石木幹人会長より、「今年度は在宅医療介護連携拠点事業が市で予算化され、自分もコーディネーターとして市から委嘱されたので、皆さんの力を借りながら成果を出せるように頑張りたいと思っている。」との挨拶がありました。

H26年6月15日

平成26年度 第1回研修会（78名参加）

講演「栄養ケアなくしてリハビリなし」

横浜市立大学附属市民総合医療センター

リハビリテーション科助教 若林秀隆先生

栄養改善は、リハビリテーションをする上で重要だというお話でした。リハと栄養管理を同時に行うことで、ADL・QOLがより改善する可能性がある一方、低栄養の患者に積極的にリハを行うことで逆効果の可能性もあるということ学びました。



H26年8月26日

平成26年度 第2回研修会（87名参加）テーマ：「在宅を支える職種の理解を深める」

高寿園・管理栄養士の菅原由紀枝さんから、栄養士会の取り組みと課題について話していただきました。

松原苑・管理栄養士の互野雅貴さんから、「男の料理教室」の紹介をしていただきました。

陸前高田市地域包括支援センター・副主幹の佐藤咲恵さんから、地域包括支援センターが行っている認知症対策についてのお話がありました。

絆デイサービスセンター・生活相談員の徳山睦美さんから、活動の様子や、地域ケア会議を通しての連携により改善した事例紹介を発表していただきました。





## チームけせんの和に寄せて

県立高田病院・院長 田 畑 潔

私が岩手県立高田病院に赴任して1年半が経とうとしています。ここ陸前高田市に来て驚いたことの 하나가、チームけせんの和を含んで医療と福祉・介護の現場同士の話し合いの場があり、いわゆる顔の見える関係を築く環境がある事でした。これは石木前院長を始め、陸前高田市で医療・福祉・介護の仕事に携わる皆様方が、地域の住民の方々をどうすれば幸せにしていけるか、との問題意識を共有する事から始まっているのだと思います。

前任地の県中部地区でもそうした動きはありましたが、各々の施設の意識の違いもあり、また所属していた急性期病院では連携を取る時間もない状況で、中々うまくいっていませんでした。

当地における在宅療養を支える地域包括ケアの考え方は、国の施策としても重視する方向に舵がとられており、やっと国が追いついてきた感があります。また地域連携パスを使っての情報共有が早くからなされ、全国的にも先進地といつて良いと言えます。

課題もあります。名称は“気仙”となっており、ここには皆様方の願いも込められているのだと思いますが、この取り組みが気仙全体に広がっているとは言えない状況です。実は大船渡でも同様な集まりを持つ動きはありますが、広範囲で関わってくる施設・団体も格段に多くなる状況で、まだまだ低調なのは確かです。こうした中で“未来かなえ協議会”が気仙医師会、2市1町の行政を母体に発足し、医療福祉連携のツールとして地域連携システム（ICTシステム）導入や医療福祉職員の人材バンクのような仕組の構築を模索しています。個人的には今後当会も様々な動きと連動しながら発展していければ良いと思っています。

今後ともよろしく願いいたします。

### 三二知識

#### 在宅訪問薬剤管理

薬局の薬剤師が直接居宅を訪問し、「薬の整理ができない」「薬が飲みづらい」などの困りごとにお応えして、薬学的指導、及び管理を行うサービスです。

##### 事例紹介

対象：70歳代男性。家族あり。

3回／日、7種類の内服薬が処方されていた。

自己管理できなかった理由として、

- ・本人が、内服が必要だと自覚できていない。
- ・種類、量も多く、自己管理できなかったため、残薬が増え、整理できない。

とのことから朝分のみ内服し、その他は処方通り内服できなかった。

対応：地域包括支援センター職員が、処方されている薬局薬剤師に上記について相談し同行訪問実施。（3回）

1回目、残薬確認、事情確認→主治医、薬剤師が情報交換と対策検討

2回目、一包化にして、朝のみの内服。内服の必要性について説明

3回目、内服確認のため、薬剤師とかかりつけの医院看護師とで訪問

対応後：内服薬の種類を減らし、回数も減らすことができ、薬の必要性について伝えることで内服薬の自己管理が可能となった。

薬剤に関することでお困りの際は主治医、または薬剤師に相談してください。



薬剤師が在宅訪問！「在宅訪問薬剤管理」



## チームけせんの和に寄せて

訪問リハビリテーションさんぽ・管理者／理学療法士 城尾 健二

「チームけせんの和だより」をご覧の皆様こんにちは。訪問リハビリテーションさんぽの城尾健二と申します。私のことを知らない方がほとんどだと思いますので、自己紹介をさせていただきます。兵庫県の明石市出身で、今年で30歳を迎えます。職種は理学療法士です。明石市と聞いてもピンと来ない方が多いと思いますが、日本標準時子午線が通る街で明石蛸と明石鯛が有名です。その他には特にぱっとしたものではありませんが、とても過ごしやすいところだと思います。そんな地元を今年の10月に離れ、陸前高田市にやって参りました。右も左も言葉もわからない土地にやってきましたが、こちらの地域の方は皆さん温かい方ばかりで非常に助けられています。今年の6月からは米崎にある農家のお宅で畑を利用させて頂き、趣味で農作業を始めました。仕事前に1時間程度作業を行っています。元々農作業のある生活に憧れていましたので、いつも楽しく作業しています。現在のところ、ラディッシュ、インゲン、ナス、キュウリを収穫しました。今はキャベツを育苗しているところで、そろそろ畑に移植する時期です。ズッキーニの種も植えましたがなぜか実がならず非常に残念でした。来年はジャガイモを栽培し、出荷しようと農家の方には言われています。農家の方がとても優しくいろいろと教えてくださるので、気づいたら育てるものが増えすぎて日々忙しく働いています。

自己紹介が少々長くなりますが、少しは私のことを知って頂けましたでしょうか？

そんな私ですが毎日利用者様の元に訪問し、リハビリを行っています。利用者様も非常に温かい方が多く、私の生活を心配されることが多く逆に精神的な面において支えて頂いているような感じです。また、管理者としての役割を会社からは任されていますが、スタッフの皆が私の手が回らない所をフォローし、利用者様に対して一生懸命向き合ってくれているので、事業所は円滑に運営され非常に助かっています。スタッフの皆には本当に感謝しています。私はこちらに来てから関わる人すべてに支えられて生きています。私を支えてくれている人達にいつか恩返しできるように活動していきます。周囲から支えられるばかりの私ですが、「笑顔で楽しくがんばっべし！！」を合言葉に地域に貢献できたらと思います。

最後までお読み頂きありがとうございました！

### お 仕 事 紹 介

#### 小規模多機能型居宅介護

要支援、要介護認定を受けた方が対象です。ケアマネジャーは、各小規模多機能ホームのケアマネジャーが担当します。

日帰りを中心に、必要に応じて「通い」・「泊り」・「訪問」の3つを組み合わせ、自宅で自立した生活を支援するサービスです。

通い慣れた場所で、顔なじみの職員が対応してくれますので、急な泊りの利用の際も安心して利用いただけます。



小規模多機能ホーム

### 編集後記

在宅医療介護連携拠点事業のコーディネーターとして6月に石木幹人氏、7月に行本清香氏、10月に熊谷質子氏を迎えることができました。チームけせんの和の活動を更に充実させていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。7月に発行する予定だった会報もあつという間に時期が過ぎ去り、こんな時期にずれ込んだことをお詫びいたします。

事務局 佐藤

※この会報は、市からの補助金で作成しました。